



すぎなみ 環境ネットワークだより

URL <http://www.ecosuginet.jp/>

すぎなみ環境ネットワーク事務局 〒167-0051 杉並区荻窪 5-15-13 TEL 03-5347-2255
 あんさんぶる荻窪 4F すぎなみ環境情報館内 FAX 03-5347-2299
 杉並区リサイクルひろば高井戸 〒168-0072 杉並区高井戸東 3-7-4 TEL 03-3331-4360
 FAX 03-5336-7351

みどりでつながる人とまち ～杉並のみどりに期待すること～

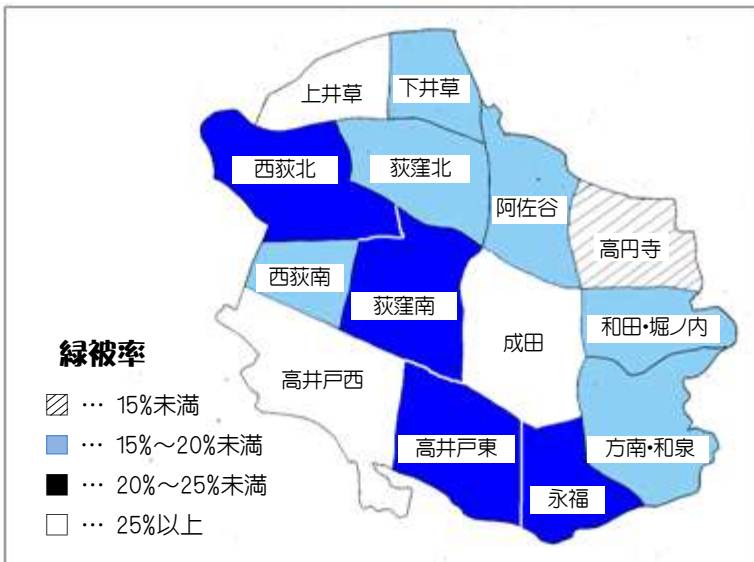
『みどり』で何を思い浮かべますか？ 山の緑、公園の緑、街路樹の緑、学校の緑、ふるさとの田畑の風景やベランダの草花…みどりの表情はさまざまです。みどりを増やすために地域や個人でできることは？身近なみどりと私たちのまちとのつながりを中心に考えてみました。杉並に豊かなみどりを育てたいですね。

今年の夏も猛暑日に熱帯夜と厳しい毎日でした。杉並区でも、都市部に見られるヒートアイランド現象(※1)対策として、区全体の緑被率(※2)を平成19年度の 21.84%から平成30年 23%、平成 44 年に 25%にアップすることを目標としています。

「杉並区平成19年度みどりの実態調査」報告書のゾーン別緑被率を見ると、川があり大きな公園の緑化の進んでいる 28.50%の地域がある一方で、住宅と商業地が占めている 11.81%の地域もあります。

※出典：杉並区平成19年度みどりの実態調査 3章 緑被率調査 4 ゾーン別緑被率

平成 24 年度は 5 年に 1 回実施されている「杉並区みどりの実態調査」の年です。



ゾーン別緑被率

ちょっとひと休み-1

※1 ヒートアイランド現象 都市部が郊外に比べて気温の高い状態のことをいう。都市部に多いアスファルトで覆われた地面、自動車の排気ガス、エアコンの室外機の熱などが原因と見られています。

※2 緑被率 上空から見て樹木や草などのみどりでおおわれた部分が区域面積に占める割合。杉並区は、東京 23 区では練馬区、世田谷区に続きみどりの多い地域と言えるようです。(平成 19 年度当時の調査比較)

～上井草に雑木林を取り戻そう！～

上井草では、「かみいぐさ雑木みちプロジェクト」の取り組みを通して、まちづくりの輪が広がっています。近郊農村当時の上井草地域には、雑木林が点在していました。薪炭の生産を目的とする武蔵野の雑木林は、上井草にとっても原風景であったのです。さわやかな「株立ち」の雑木で郷土の景観を蘇らせようという同プロジェクトの緑化取り組みは、実は現代の街並づくり＝グリーンベルトづくりの方法としても優れています。小スペースの直植えや鉢植えで商店街、住宅、学校に小さな「雑木林」が生まれ始めています。



<genro&cafe>
レストラン兼アトリエの建物と株立ちの植栽は杉並まちデザイン賞を受賞。このプロジェクト立ち上げの原動力になったそうです。

(写真提供
まちづくり上井草)



区立井草中学校で昨秋植えた木々は、ボランティアの水やりでこの夏を乗り切りました。

かみいぐさ雑木みちプロジェクト

代表の千葉皓史さんの呼びかけで始まった「雑木みち」は、杉並区認定テーマ型まちづくり協議会「まちづくり上井草」のプロジェクトの一つです。

昔から住んでいる人、新しく移り住んだ人、町を訪れる人に共通の受け皿となるまちづくりの取り組みには、さらに「かみいぐさ坂市」、「かみいぐさ碁盤坂プロジェクト」、「サインプロジェクト」があり、活動には駅北側の練馬区住民も参加しています。

活動の様子は、「まちづくり上井草」ホームページでもご覧いただけます。

<http://kami-igusa.jp/>



西武新宿線・上井草駅にはガンダム像と株立ちのミニ雑木林が共存しています。

株立ち(かぶだち)

伐採した樹木のひこばえが若木に育ち、一本の木の根株から複数の細い幹が立ち上がったもの。薪や炭の材料となる木の畑だった雑木林は、株立ちの「萌芽更新」により人工的に管理されました。軽快な印象は造園にも応用され、高さの制御も可能。一株の植え込みに必要な土はわずか 50cm 四方程度です。

一般家庭へのお薦めの雑木

(昔の雑木林は主にクヌギ、コナラ)

落葉樹:ヤマボウシ、モミジ、シャラ、エゴノキ、リョウブ、アオハダ、アオダモ、シロモジ、クロモジ、ツリバナ、ナツハゼ、ミツバツツジなど

常緑樹:ソヨゴ、アラカシ、シラカシ、ハイノキ、アシビ、ヒラドツツジ

※大半が genro&cafe で見られます

～地域の多くの人々の協力で残された「トトロの木」～

西荻北4丁目38番、善福寺川にかかる原橋から坂を登ったところに、一本の見事なけやきがあります。この木は「トトロの樹」と呼ばれ、地域の人に親しまれてきました。樹齢は約90年とのこと。

署名はタイムカプセルに容れて公園の一角に埋めてあるそうです。また、みんなの思いが入口の石版に刻まれています。



みんなの思い

この見事なけやきは地域の多くの方々の協力により残され、けやきが主役の公園を地域の住民が中心となって育んでいます。地域のシンボルとしてみんなに親しまれているけやきは自然樹形を保ちながら、その姿も守り育てています。

今後もそのために住民と行政が互いの役割を担いながら、より良い公園を目指していきます。

平成二十二年四月

4年半前、相続で土地が売却され、マンション建設のため伐採することとなりました。

貴重木の指定解除の手続きがとられたとの話を聞いた近くに住むカフェ・カノンの店主Yさんはびっくり。家族会議を開き、保護出来ないか知恵を絞ったそうです。

「トトロの樹保護に関するお願い」という署名運動を開始。すぐに町内会、商店会、地元のお年寄り、区議など、多くの協力者が現れ、3か月後に署名は8,000人を超えました。

住民の訴えに区も応えることとなり土地を購入。公園として残すために区と地域住民の間で話し合いを重ねたそうです。

そして一昨年3月、「坂の上のけやき公園」が開園しました。

このけやきは、90年も地域を見守ってきましたが、もし、マンションが建っていたら、すぐ忘れられたかもしれません。

おかげで、これからも地域を見守り続けてくれることができます。地域の人々も、たくさんの思い出を残すことでしょう。

立ちあがった地域の人もそれに応えた区も、自分も参加したと満足。中で一番の功労者、伐採の話を目にしてすぐ動き出したYさんは、「年代を超え、日頃会えないような方と出会えた。保護活動の成功の秘訣はあきらめないこと」と振り返ってのお話でした。

ちょっとひと休み-2

杉並区の貴重木とは

次世代に残すために所有者と区が協定を結び保全している次の樹木。(2011年度末 42本)

- ① 1.5mの高さにおける幹の直径が 90cm以上ある樹木
- ② 枝葉の面積が 50㎡以上あるつる性の樹木
- ③ 同一樹種中特に大きい樹木又は区内で良好に生育していることが生態的に珍しい樹木
- ④ 地域における象徴的な存在として、良好な景観の形成に寄与している樹木

～公園を育てながら、人がつながり、文化をつなげる～

区立柏の宮公園の田んぼ

区立柏の宮公園づくりには、多数の区民が参加して基本計画や公園憲章を策定しました。平成16年の開園以来、区と協働して区民自らが公園の運営管理に関わっています。

ビオトープや雑木林の自然保全活動、ふゆみずたんぼ(※1)の管理をはじめ、子どもを対象としたイベントの開催等を行っています。

自然保全活動を通じたコミュニティづくりには、地域のいくつかのボランティアグループの方々が参加し、相互に交流しています。



柏の宮公園の稲刈り風景

元はテニスコートだったので田んぼにするのは何年も苦労したそうです。昨年の収穫高は68.5Kgで、少しずつ増えているようです。

ちょっとひと休み-4

緑を知るためのキーワード

杉並区では、区内の貴重な「みどり」の保全のために「みどりの条例」に基づく様々な施策があります。街でときどき目にする、木についたプレートもその一つ。意味が分かると、木に対する見方が変わるかもしれません。

・**保護樹木**…1.5mの高さにおける幹の周囲が1.2m以上ある樹木等を対象に指定した樹木。

・**貴重木**…美観の維持等に資する樹木。

(詳細は P3 をご参照ください。)

・**保護樹林**…樹木が集団となっている、土地の面積が500㎡以上の樹林。屋敷林、寺社林、学校林の場合300㎡以上、高木が30本以上あり、自然的景観を

柏の宮公園には約300㎡の田んぼがあります。区民グループの「自然の会」が管理運営を行っていますが、田植え、稲刈り、脱穀・粃摺り(もみすり)は小学生や幼稚園児もお手伝い。

11月の収穫感謝祭では、手伝ってくれた子ども達や近隣の人たちにおにぎりや豚汁が振る舞われます。田んぼの作業を通して人々の輪が広がっています。

ちょっとひと休み-3

※1 ふゆみずたんぼ

稲収穫後の10月頃から翌年3月頃まで水を張る状態で管理される水田で、「冬期湛水田」(とうきたんすいでん)ともいいます。米ぬか等の有機肥料を施肥後、湛水することにより微生物や土壌生物が増殖します。これらを捕食する水生昆虫、メダカ、ドジョウ、カエル、さらにこれらを捕食する鳥類が飛来し、多様な生物の生息地を復元します。このような生物との共生による循環型農法は、地域の自然再生への貢献が期待できます。

有するものを対象に指定した樹林。

また現在、屋敷林を調査評価し、特に後世に残すべき貴重な樹林を「特別樹林」として指定することに向けて検討中です。



～みどりの資産を次代につなぐ～

阿佐谷北の屋敷林

阿佐ヶ谷駅の北、杉並第一小学校の東側に広がるみどりは、Aさん宅の屋敷林です。

南側にある樹齢200～300年ほどのけやきの大木は震災にも焼け残ったもの、北側はその後植樹された比較的新しいものだそうです。

「先祖代々受け継いできた土地や木といった生きものを、今は自分が預かっているというプライドはあります」というAさん。

この屋敷林は区の保護樹林となっていて、貴重木の指定を受けている木も多くありますが、樹木の維持管理は個人の負担です。

「これだけの高さの木となると、庭師では伐れないので、クレーンで支えて樵(きこり)に伐ってもらいます。

また、鳥が落としていった糞から芽を出した小さな木が大きくなると風が通らなくなり、陽射しも入らなくなる。家が傷んでしまいます。

そして一番の心配は、台風や大風の時に枝が折れて落ちること。子どもの頃、父が夜中にテレビで台風の進路を見ていたのをよく覚えています。」

数mはある枝が隣の屋根に落ちたら大惨事になってしまいます。保険には入っていても安全管理には一番気をつかうそうです。

無事に次世代に相続できるかも難しいところです。住宅と一体となった今の風景を残せる道があれば……屋敷林の所有者だけでなく、街の風景を残したい人々の思いではないでしょうか。



ちょっとひと休み-5

杉並区内の屋敷林

平成19年度の調査では、区内の緑被地の約70.5%が私有地であることがわかりました。特に屋敷林は、樹林面積で見ると、公園に次ぐ2番目に広い面積を占めています。

武蔵野台地の屋敷林は、風を防ぐため農家の周りに作られた人工林で、樹種は常緑広葉樹のシラカシや落葉広葉樹のケヤキが中心です。武蔵野の面影を残す風景や、歴史のある大木と広い敷地が地域にとって貴重な緑の財産となっています。

区内の緑被率は回復傾向にあります。これは公園整備や学校校庭の緑化による草地が増えたため、屋敷林をはじめとする住宅地内の樹木は減少しています。

杉並区でも貴重木、保護樹林などの指定により樹木の保護に努めています。しかし、広い敷地と大木であるために、所有者が負担する維持管理費は大きく、相続税も高額なため、次代へ継承することが困難なケースもあります。

～我が家のみどりを増やそう～

「かんきょうアイデア展」の受賞者にインタビュー

平成 22 年度、レポート部門で理事長賞を受賞された A さんは当時小学5年生。みどりのカーテンを続けています。…… 今年のカーテンはいかがですか？



ガーデニングが好きな母が毎年植えているゴーヤを使って、2年前にエコカーテンについて調べてみました。朝晩の温度を測って、カーテンの効果が良くわかりました。そのとき「すぐれたレポート内容で賞」という賞をいただきました。それから毎年ゴーヤを植えてエコカーテンを設置しています。今年はまだ収穫できませんでしたが、さらにエコに挑戦しようと思い、水やりに米のとぎ汁や雨水を利用しています。

…… 暮らしにしっかり根付いたみどりで素敵です。記者も別の方から、収穫したゴーヤのお裾分けをいただきました。ほのぼのとうれしい一日でした。

ちょっとひと休み-6

みどりのカーテン

つる性の植物を建物の窓周りなどに這わせるみどりのカーテンは、夏の強い日差しを遮り、植物の蒸散作用と風を通すことで住宅の開開口部(壁・窓・バルコニー)の表面温度を下げる効果があります。近年の酷暑とエネルギー問題を考えると、都市部建物緑化はヒートアイランド対策として、冷房装置に極力頼らずに過ごすための住まいの工夫の一つです。

～地域の高等学校も みどりを育てる人を支援～ 都立農芸高校

都立農芸高校では、地域とのつながりを大事にしながら、みどりに関わる人を育て、支援しています。学校長へのインタビューです。

Q1. 地域との協働はどのような内容ですか？

A1. 地域の商店街や駅の花壇に花を植えています。奉仕の授業をあて、地域の人たちと生徒と一緒に作業をします。荻窪駅前の銀行の屋上庭園は設計からの参加で、維持・管理にも関わっています。公開講座の開催は、地域を超えて参加者に好評です。

Q2. みどりを育てる講座の内容は？

A2. 「みどりのボランティア」養成講座を2008年から実施し、昨年度までで30名の修了生は、すでに地域で活動を始めています。当校の授業と一緒に出席し、地域の花壇づくり、学校や福祉施設の園芸活動を支援する人材の育成を目指しています。

Q3. 他のみどりに関わる取り組みをご紹介ください。

A3. 都立高校で最初に認証取得したエコアクション 21でもみどりを増やすことが目標の1つです。

すぎなみ環境情報館・ リサイクルひろば高井戸の講座から

～段ボールコンポストで生ごみ堆肥～

みどりを育てる土には堆肥が欠かせません。家庭の生ごみから段ボールコンポストを使って堆肥が作れます。リサイクルひろば高井戸の講座では、堆肥づくりとごみの循環を学べます。専門の講師を招き、講座とフォローアップも実施しています。



台所の生ごみは毎日投入できます。

段ボールコンポストの使い方

コンポスト用ダンボール箱にピートモスと粗がらくん炭を入れる ⇒ その中に小さく切った生ゴミを入れて、よく混ぜる ⇒ 3～4か月使い続け、発酵させる ⇒ ごみの投入を止めて約1か月間熟成させる ⇒ 堆肥の完成

※ ベランダに置いて、水分調節が簡単で、においの問題もほとんどありません。



投入した生ごみはよく混ぜ、発酵させます。



左:生ごみ投入中
右:4か月に熟成期間に入ったもの



布のカバーをかけて保温し、虫の侵入を防ぎます。

～すぎなみの息づく緑で草木染め～

すぎなみ環境情報館で、毎年2回実施している人気の講座です。毎回、区内の季節の草木を使って染め、身近にある自然の恵みを感じていただけます。染料には、剪定枝や落ち葉、草などを利用しています。

《過去の使用した植物》

- 例) 剪定枝：アジサイ、ビワ、トベラ、モチの木、ソヨゴ 椎の枝、笹、車輪梅(しゃりんばい)
- 落ち葉：桜の葉、ケヤキの葉、
- 草：ヨモギ、スギナ、ヤブカラシ など





苗木の里親、募集中!

～我が家の苗木が東京湾の森になる～

森をつくる活動に参加できます

みどりを増やすと言っても、自分にできるのは庭やベランダで草花を育てる程度。木を育てる場所はないけど、もう少し手ごたえのある活動がしたいという方におすすめなのが、植樹のための苗木づくりです。

東京都港湾局が進めている「海の森」プロジェクト。かつてゴミの島と呼ばれた中央防波堤内側埋立地に植樹をして、美しい緑の森にしようというものです。

この森が海から都心に向かう風の道の起点となり、浜離宮、皇居、新宿御苑、明治神宮などの都内の大規模緑地を渡りながら都心に冷えた風が送り込まれることが見込まれます。

この風が都心のヒートアイランド現象を抑え、CO2を吸収して地球温暖化を防ぐ効果も期待されています。

植樹される苗木には小学生がどんぐりから育てたものや、苗木づくりボランティアが育てたものが含まれています。

すぎなみ環境ネットワークも、セブソーイレブン記念財団の助成を受けて、平成23年度より団体苗木づくりボランティアとして参加しています。



あなたも苗木を育ててみませんか?

「海の森」プロジェクトへの募金・苗木づくり募集は終了しましたが、すぎなみ環境ネットワークでは600鉢あまりの苗木が育っています。その苗木の里親を募集しています。

ボランティアで育てていただき、平成26年に「海の森」へ植樹します。詳細は、すぎなみ環境ネットワーク事務局までお問い合わせください。

※ お問い合わせ先:特集号の表紙をご覧ください。

あなたが育てた苗木が東京湾の森になり、その木を渡った風が吹いてくると想像すると、ちょっと嬉しくなりますね。苗木を育てながら、山で水をたくわえる森林や、自分の人生よりも長生きする木に思いを馳せたり……。1本の苗木が、遠くの自然や緑について身近に感じさせてくれるでしょう。

ちょっとひと休み-7

「海の森」プロジェクト

東京湾に浮かぶ、ゴミと建設発生土で埋め立てられた中央防波堤内側埋立地。この埋立地に苗木を植え、美しい森に生まれ変わらせる計画が「海の森」プロジェクトです。

面積は、約88ヘクタール(日比谷公園の約5.5倍)。苗木は、市民、民間企業からの募金によって調達・植樹されます。スタジイ、タブノキ、エノキ等「海の森」で自然に育成できる可能性があり、防風、防潮効果が高い種類48万本を計画しています。

皆様に育てていただく苗木はアキニレ、ウバメガシ、スタジイ、シラカシ、ムクノキです。

詳細は「海の森」で検索できます。 <http://www.uminomori.metro.tokyo.jp/index.html>